

夏季教養講座開催



村田晃嗣氏

令和6年8月23日ホテルプリムローズ大阪にて、近畿管区内の警察幹部84名を対象に「令和6年度夏季教養講座」を開催した。開講式にて、共催の大原光博近畿管区警察局長の挨拶の後、2名の講師による講演が行われ、受講者は熱心に聴講した。閉講式にて当会の中川喜博理事長が挨拶を述べた。



公益財団法人
近畿警察官友の会

村田晃嗣氏

同志社大学法学部政治学科教授

「米大統領選挙と国際情勢」

今年は4年ごとの台湾総統選、オリンピック、米国大統領選の年にあたり、さらにイギリス、フランスそして日本での選挙、さらには大きな国際紛争を2件抱えた慌ただしい年だと述べられた後、「ロシアによるウクライナ侵攻」「イスラエル・ハマスの戦い」「米大統領選挙」について次の内容で講演された。

「ロシアによるウクライナ侵攻」

プーチン側から見れば米大統領選の結果次第で有利な交渉に持ち込める可能性があること、兵員のリクルートはプーチン体制維持に影響しない農村部、貧困層から可能なことから、停戦を急ぐ必要がないと考えているだろう。

なぜプーチンがこの侵略に手を付けたかは、旧ソ連解体以降衰退が続き、中国の1割の人口とGDPしかない国に没落したロシアが、大

● 本号の目

- 「夏季教養講座」開催 1〜4頁
- 理事会・評議員会報告 5頁
- 令和5年度事業報告・決算 5・6頁
- 令和6年度補正予算 6頁
- 役員・副支部長一覽他 7・8頁

としての地位を最低限保つためではないか。しかし結果としてロシアの衰退は加速し、中国依存が高まると考えられている。

この戦争はロシアが北朝鮮、ウクライナは韓国から武器弾薬を調達、かつては北朝鮮が旧ソ連のスターリンの許可を受け韓国に侵攻、今回はプーチンが中国の習近平に許可をもらって侵攻を開始したこと、米国が韓国と同様に大統領経験者が訴追される政治状況となつていくことなど「朝鮮戦争」の構図に例えることができる。

この戦争の終結は見通せないが、終わりのない戦争はなく、終戦、停戦のタイミングで想定される国際政治上の問題が幾つかある。

1は、ロシアに対する経済制裁を、どのタイミング、どのレベルで解除するのかそれとも継続するのか難しい。足並みが乱れればプーチンの付け入る隙が出てくる可能性がある。

2は、600万人いるといわれるウクライナ難民の帰還。現在は難民に同

昨今は凶悪な犯罪が相次ぎ、悲惨なテロも他人事ではなくなりました。私たち市民は、「安全で安心して暮らせる社会」を望んでいます。公益財団法人近畿警察官友の会はそうした社会の実現のため、日夜業務に従事している近畿各地の警察官を支援しています。

情的な各国も戦闘が終われば、反難民の声が高まる可能性がある。しかし難民のウクライナへの帰還は国土が荒廃しているため困難。そこで日本に求められる支援や役割が大きくなるのではないかと？

3は「インドはどこに向かうのか？」人口で世界一となりGDPでも近い将来日本、ドイツを抜くと思われるインドは「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」を指す対中国の枠組みでは、日・米・豪と協力関係にあるが、歴史的にロシアと繋がりが深く、兵器武器もロシア製、経済制裁にも加わっていない。この大國インドと我々は価値をどこまで共有できるか、どこにインドは向かうのかが国際政治上の大問題として突きつけられる。

「イスラエルとハマスの戦い」

この戦いには、3つの当事者イスラエル、ハマス、パレスチナの民間人がいるが、それぞれが課題を抱えている。

まずイスラエルは自国の安全保障に絶大な自信を持っていたが、ハマスの奇襲により大きな犠牲が出、パニック状態に陥っており社会全体が過剰反応している。

同国は民主主義国家ではあるが、一院制の比例代表制のため小党乱立となりネタニヤフ連立政権維持の鍵を、ハマス根絶を唱える少数政党が握り簡単には和平交渉に応じられないこと。米国の有力大学にて自らの税金や授業料が、罪のないパレスチナの人々を殺すイスラエルの弾薬になっているのではないかと反対デモも生じている。

武装集団ハマスの問題は、実現不可能な「イスラエルの根絶」という極端なものがその目的となっていて、いることではなかなか妥協のできない組織であること。

パレスチナは、暫定政府に全く統治能力がなく、腐敗したものであり、支援し続けてきたアラブ諸国も見限り始めていること。

以上当事者それぞれが課題を抱え、いつまでこの戦いが続くのか定かではないが、イスラエルは、米国の提案する和平案にどの条件、タイミングで乗れば一番高く恩を

売れるか、大統領選の情勢、結果を見極めつつ考えていると思われる。

「米大統領選について」

バイデン・トランプが候補者であった時点でよく受けた質問に、「どちらが勝つのか?」「なぜ高齢者2名の戦いなのか?」の2点がある。①勝者予測は、「6月や8月のタイミングでわかるわけがない」というのが答え。過去の例でも8月末時点で、大統領選の勝者ははっきりと予測できていたことはなく、9月以降に選挙戦は本格化、10月発表の第3四半期の経済統計の結果にも大きく左右されるためである。②の質問については、「4年後を待っている」と考える。今回の選挙では、共和・民主どちらから出馬してもトランプを相手に戦うことになり、政策論争にはならず個人の人格攻撃にさらされる可能性があり、高齢者がいなくなる4年後に次の世代は勝負するところを選択していると考えられる。

なってもアメリカの民主主義にとって選択の幅が広がり良いことだと考える。

トランプとハリスはベビーブーマー世代の最初と最後の年の生まれの戦いとなる。今回ハリスが勝利すれば21歳の若返り、たとえトランプが勝利しても4年後には大きく若返り世代交代することとなる。両者のどちらが勝つか、日本にとって都合がよいかではなく、今回、もしくは4年後の世代交代に対応できるかが肝要である。

大統領選挙のみではなく、連邦議会選挙も重要。米国憲法では第1条は議会であり、第2条が大統領となり、政治の中心は議会で、大統領はその執行役と位置づけられる。現在、いずれも僅差で上院は民主党、下院は共和党が多数派のねじれ状態であるが、今回の選挙で、上院は改選議員の関係で共和党が逆転、逆に下院は民主党が多数派となる可能性があり、ねじれ状態が続けば、どちらが大統領に選ばれても政府は議会の動向に束縛される可能性がある。米国は三権分立が確立しており、連邦最高裁判所の権限は強大。判事は大統領が任命し上院の承認

を受けた終身のポスト。現在9名中6名が保守派の判事であるが、その動向からも目が離せない。

米国では地方からスター政治家が輩出されている。イリノイ州のオバマ、アーカンソー州のクリントンなど地方政治家から大統領に上りつめた例も多い。

米国の地方分権というシステムが持っている力も大きいことを忘れてはならない。トランプのパリ協定離脱の方針も、多くの州、大学、企業がパリ協定を順守したといった例もある。

米大統領が誰になっても日本は結果を受け入れ、歓迎の一択しかないが、個々の友人は選ぶことができる。米国があらゆるところで大きな世代交代の流れにある中、私たちがそれぞれの立場で、いろいろな地域や職業で次の米国を担う人材と友好関係を結ぶことが日米友好関係のセーフティネットにつながる。

以上の内容の講演、質疑応答に加え、日本国民の世界宗教(特に一神教)に対する基本知識、宗教リテラシーの向上の必要性を語られ講演を終えられた。



西田豊明氏

西田豊明氏

福知山公立大学副学長

「生成AIのいる暮らし」

挨拶の後、ChatGPTを中心としたAIの活用について資料に沿って講演された。

「はじめに」

講演タイトルを「AIのある」ではなく、「いる」としたのは、生成AIは物ではなく、人間みたいなものと考えているから。その「暮らしがいつ始まるのか」に対しては「すでに始まっているが、始まったばかりである」というのが私の答え。ChatGPTがリリースされた2022年11月30日を境に世の中が大きく変わった。

生成AIは究極のAIではないものの、非常に大きなパワーを持っている。

生成AIを使いこなすには、費やす時間や利用料はかかり、へこたれない根気、根性も必要であるが、それでもやってみようと思う

冒険心があれば、大きなメリットがある。ぜひ活用していただきたい。

AIとは「人間のよう知的なふるまいをする機械」である。少しでも間違えた指示を出すと答えを出せない、石頭のコンピューター（以下CP）の上に実現されているが、CPとは別の次元にはいつている。

私がAIを研究しようとした動機もその石頭のCPではない、難しい専門技術の話題から、身の回りのトラブルまで、厄介なことを含めて何でも相談できるCPを作りたかったからである。そして、それがいま目の前にある。残念ながら、その実現への私の貢献など目に見えないくらい小さいのであるが。

「生成AI出現までの歴史」

生成AI出現に至るには、過酷な労働を代行してくれる機械が欲しい、その頭脳が欲しいといった人類の願いが根底にある。CPが1950年くらいに商用化され、それ以降、科学技術の対象としてのAI研究が進みビジネス対象ともなってきた。以来2回のAIの冬と呼ばれる停滞期を超えて、現在は社会の大きな関心をひく存在となった。

AIの主要原理は、コンピューターの能力にに応じて変化してきた。

現在のAIは「機械学習」であり、人間がいちいちやり方を指示するのではなく、AIがやり方を覚え、自分で探し出す技術になっている。例えば手書き文字の認識では、事前に多くの正解例を与えて機械学習を実行すると、AIがそこから法則性を抽出し文字を判別する。AIにやり方を教えて自ら学べるようにするためには大量のデータ利用が可能となり、CPの高速化と安価が必要であった。

2010年ころからはじまったとされる3次AIブームのころには、CPの高速化と安価が進み、インターネットも発達して、機械学習に必要な大量のデータが容易に手に入るようになった。そのタイミングで自動運転車の原型や、2016年には、世界トップの囲碁棋士に勝利するAIが登場した。ただし当時のAIは特定のミッション実行のために特化されたAIであった。当時人間のように多様なことができる汎用型のAIの実現はいつになるかわからないと私も含めて多くの研究者が考えていた。ところが2022年11月30日に、オープンAI社からChatGPTがいきなり製品版として無料公開された。生成AIには、2つのルーツがある。第一は、GANと呼ばれる

音声・画像・映像系のAIであり、模造や同じ作風の作品生成に使われる。写真を元にしたショートアニメーション制作もできたりする。しばしば、AIによるフェイクの生成として問題視される。第二は、ことばの世界で同様のことができる、トランスフォーマーと呼ばれるモデルを用いた言語系のAIである。ChatGPTはこちらに含まれる。

昨年の7月以降、言語系のAIは、ChatGPTのみではなくいろいろなプロダクトが利用できるようになり、先発のChatGPTに並ぶ実力をもちはじめたが、GAF Aなどの巨大企業よりも、オープンAI社や、スタートアップ企業のアンソロピック社から優秀なモデルが生み出されているのは不思議。その理由は私にもわからない。

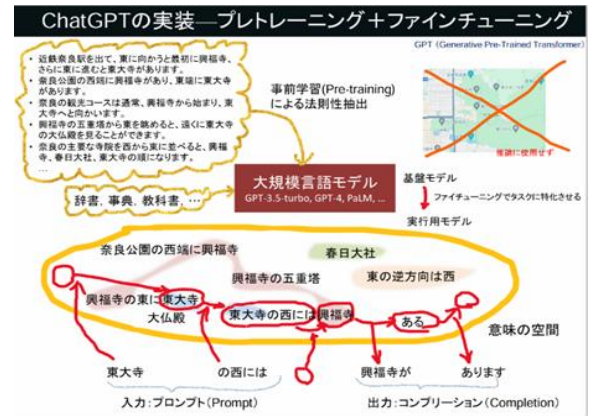
「言語系AIの基本的な仕組み」

言語系の生成AI（以下AIと表記）の基本的な動作原理は公開されているが、人間の脳全体の働きについて、何故いろいろな感情が起り、知能が発現しているか論理をたどって説明ができないのと同様、生成AIをもはや原理に

遑って捉えることはできず、経験的に理解するしかなくなった。

例えば、資料の左上の奈良駅周辺の文字情報を事前学習させると、人の頭の中と同様、資料下部のような位置関係がうっすらとAI内部でつくられる。「東大寺の西には」ときっかけの入力（プロンプト）となる文字情報を与えると、AIの中で「興福寺がある」ということが浮かび、「興福寺が」というアウトプットのあと、そのテキストには「あります」という言葉が浮かび、それを連ねると「興福寺があります」という出力（コンプリーション）が出てくる。

AIの手法は単純でも非常に強



力であり、AIとの間に確立された文脈のもとで入力が続けて、対応する出力を得ることができ。ここで、入力と出力を、質問と答えと位置付けてしまうのはよくない。

入力（プロンプト）はあくまでも出力を促すきっかけ—あるいは上の句—であり、出力（コンプリーション）はそこから連想される下の句—だと思っただ方が有益だ。プロンプトをどう与えたら、自分の求めているコンプリーションが得られるだろうかと思っ、いろいろ工夫をしながらAIとのやり取りを続けることでAIのメモリットが引き出せる。AIは、「絶対正しいもの」というものを認めないからこそ、前記のような連想が可能となるが、そのために誤った情報を生成する（ハルシネーション）ことがあるのも忘れてはならない。

「言語系生成AIの使い方」

ベーシックなAIの使い方は、言葉によるやり取りである。

例えば、具体的な要望を示して「科学実験」の提案を求めている情報の中から要請に応じた出力をする。対話形式で人の気持ちるなぞすることも可能だが、AIから得られるコンプリーションは、多くの場合、没個性的であり、スピ

ーチ原稿作成などには不向き。しかしロールプレイ形式の対話役などとして役立つ可能性がある。このレベルの利用法であれば、無料版でも可能。検索エンジンとは全く使用目的が異なる。ただし根気よくやり取りをする必要がある。

最終的には、人間が確認の上、責任をもって発表しなければならぬ。10分くらいではいい結果を得られないことも多いが、2時間くらい、あるいはもっと時間をかけると大きなメモリットを引き出せることがしばしばある。

初中級編になるが、現在ネット上にある多くのICTのツールを利用することに現時点でのAIの最大の利点があると考えている。

例えばエクセルのマクロ作成を日本語で求めることや、利用者のプログラミング言語の知識が少なくても、AI使用によって日本語でのプロンプトによって、プログラムを共創することも可能。

中級編以上は、有料版の利用と高度な技術的知識が必要だが、チャットボット（自動応答システム）の作成、特化型のAIと組み合わせによる高度な数式処理、テキストだけでなく画像など複数のデータを組み合わせて利用するマルチモーダルAIとしての利用、API

を介してさらに高度な利用が可能となる。ビジネスやサービスに利用できる可能性もある。ただし、今のところ、リスクもコストも大きい。

「AIへの懸念」

人類未経験のテクノロジーに対する心配ごともある。例えば ○生成AIの事前学習時に著作権違反が起きている可能性 ○プロンプト入力の際、個人情報や機密情報を入力し、盗まれる可能性 ○出てきたコンプリーションは正しいとは限らない。（間違った情報が一人歩きする可能性）○AI依存への危険 ○悪意ある利用（開発者によって反社会的な利用は封じられているがそれを破る可能性がある）をされる恐れなどが懸念される。

ではどうしたらいいのか？ AIの不完全性とリスクと責任は人間がとらなければならないことを理解した上で冒険心と根気をもって良き相談相手としてAIを活用していただきたい。そうすることで、これまで一人では到底できないこととあきらめていたことができることもしばしばあるだろう。

理事会・評議員会報告

第41回理事会(決議の省略)

小嶋理事長が決議の省略により次の議案を提案し、12月8日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ◇第1号議案 「支部運営委員の選任」の件

第42回理事会

開催日 令和6年3月12日
場所 KKRホテル大阪

出席理事9名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

- ◇第1号議案 「令和5年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件
- ◇第2号議案 「代表理事(理事長)の選定」の件
- ◇第3号議案 「業務執行理事(副理事長)の選定」の件
- ◇報告事項 職務執行状況の報告について 「夏季教養講座」について 当会の現況報告について

第43回理事会

開催日 令和6年6月3日
場所 KKRホテル大阪

出席理事11名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

- ◇第1号議案 「令和5年度事業報告及び附属明細書の承認」の件
- ◇第2号議案 「令和5年度計算書類及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件

◇第3号議案

「令和6年度第一次収支補正予算書(案)の承認」の件

◇第4号議案

「第17回定時評議員会招集決定」の件

◇報告事項

職務執行状況の報告について
当会の現況報告について
第44回理事会(決議の省略)の提案書について

第17回評議員会

開催日 令和6年6月19日
場所 KKRホテル大阪

出席評議員10名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

- ◇第1号議案 「令和5年度事業報告及び附属明細書の承認」の件
- ◇第2号議案 「令和5年度計算書類及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件
- ◇第3号議案 「理事の選任」の件
- ◇第4号議案 「評議員の選任」の件
- ◇第5号議案 「定款の一部変更」の件
- ◇報告事項 第41回理事会(決議の省略)、第42回理事会、第43回理事会の決議内容について 第44回理事会(決議の省略)の提案書について 「夏季教養講座」について 当会の現況報告について

第44回理事会(決議の省略)

中川理事長が決議の省略により次の議案を提案し、6月19日に理事会の決議があったものとみなされた。

- ◇第1号議案 「代表理事・業務執行理事・役付理事の選定」の件
- ◇第2号議案 「各府県支部長の選定」の件
- ◇第3号議案 「相談役の選任」の件
- ◇第4号議案 「副支部長の選定」の件
- ◇第5号議案 「支部運営委員71名の選任」の件

令和5年度 事業報告及び決算について

事業の概要

- 1 当会最大の催し「近畿優良警察職員に感謝の会」を開催した。
- 2 各府県支部活動は計画通り実施した。
- 3 会報「けいさつの友」を2回発行した。
- 4 「夏季教養講座」は、2名の講師を招き開催した。
- 5 近畿管区警察局主催の術科大会にメダルと楯を寄贈した。

会員数の推移

	令和5年3月31日	令和6年3月31日	比較
個人会員	478名	444名	-34名
法人会員	185社	180社	-5社
地区会員	77地区	78地区	+1地区

☆正味財産の増減について(令和5年4月1日～令和6年3月31日 単位円)

科 目	令和5年度	令和4年度実績	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	397	803	△ 406
② 特定資産運用益	8	8	0
③ 受取会費	30,174,500	30,105,500	69,000
④ 受取寄付金	3,234,000	2,730,000	504,000
⑤ 雑収益	122,198	140,301	△ 18,103
経常収益計	33,531,103	32,976,612	554,491
(2) 経常費用			
① 事業費	21,630,789	21,941,683	△ 310,894
② 管理費	8,654,625	10,265,494	△ 1,610,869
経常費用計	30,285,414	32,207,177	△ 1,921,763
当期経常増減額	3,245,689	769,435	2,476,254
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,245,689	769,435	2,476,254
一般正味財産期首残高	48,715,793	47,946,358	769,435
一般正味財産期末残高	51,961,482	48,715,793	3,245,689
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	51,961,482	48,715,793	3,245,689

☆令和6年度収支補正予算について(令和6年4月1日～令和7年3月31日 単位円)

科 目	令和6年度補正予算	令和5年度実績	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	300	397	△ 97
② 特定資産運用益	0	8	△ 8
③ 受取会費	29,305,000	30,174,500	△ 869,500
④ 受取寄付金	2,100,000	3,234,000	△ 1,134,000
⑤ 雑収益	100,000	122,198	△ 22,198
経常収益計	31,505,300	33,531,103	△ 2,025,803
(2) 経常費用			
① 事業費	24,977,225	21,630,789	3,346,436
② 管理費	9,798,410	8,654,625	1,143,785
経常費用計	34,775,634	30,285,414	4,490,220
当期経常増減額	△ 3,270,334	3,245,689	△ 6,516,023
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,270,334	3,245,689	△ 6,516,023
一般正味財産期首残高	51,961,482	48,715,793	3,245,689
一般正味財産期末残高	48,691,148	51,961,482	△ 3,270,334
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	48,691,148	51,961,482	△ 3,270,334

公益財団法人近畿警察官友の会 役員等一覧

(敬称略)

理事

理事長・代表理事	中川喜博	(株)阪急阪神ホテルズ 代表取締役会長	
副理事長 大阪府支部長	延原健二	延原倉庫(株) 代表取締役社長	
滋賀県支部長	土沢健一	(株)ナツハラ 取締役会長	
兵庫県支部長	桑田純一郎	但陽信用金庫 理事長	
奈良県支部長	森本俊一	三和澱粉工業(株) 代表取締役会長	
和歌山県支部長	山名正一	山名労務行政管理事務所 所長	新任
理事	江浦保	(株)江浦製作所 取締役会長	
理事	渡部隆夫	(株)寿光 代表取締役会長兼社長	
理事	藤尾政弘	(株)フジオフードグループ本社 代表取締役社長	
理事	中村剛	大阪ガス(株) 顧問	
専務理事	日下勝之	当財団 事務局長	

小嶋淳司氏、成川守彦氏は任期満了により退任され、小嶋氏は相談役に、成川氏は評議員に就任されました。

監事

北岡慎吾	北岡公認会計士事務所 所長
上將倫	弁護士法人松尾・中村・上法律事務所 代表社員

評議員

中堀佐一郎	滋賀特機(株) 取締役会長	新任
草野丈治	(株)草野組 会長	
中川廣司	(株)高速産業 代表取締役会長	
内田順之		
北川忠嗣	東大阪石油(株) 代表取締役	新任
松本壽満	(株)マツモト 代表取締役会長	
竹位賢二	(株)フジヤ號 取締役会長	
齋藤昭		
小山新造	小山(株) 取締役会長	
中井隆男	大和ガス(株) 相談役	
畑野富雄	畑野産業(株) 取締役顧問	
成川守彦	(医)千徳会 会長	新任

岩田守彦氏、迫田謙典氏、坂本漸氏は任期満了により退任されました。

相談役

小嶋淳司	(株)GANKO 社主
------	-------------

松崎高顧問は、任期満了により退任されました。

副支部長

(敬称略)

兵庫県支部	広瀬 努	広瀬化学薬品(株) 取締役会長	
和歌山県支部	堤 昌男	中野歯科医院 院長	

☆新理事紹介
山名正一 理事 和歌山県支部長
山名労務行政管理事務所 所長



和歌山県在住
昭和18年生まれ

☆新評議員紹介
中堀佐一郎 評議員

滋賀特機(株) 取締役会長
滋賀県在住
昭和23年生まれ

北川忠嗣 評議員

東大阪石油(株) 代表取締役
大阪府在住
昭和22年生まれ

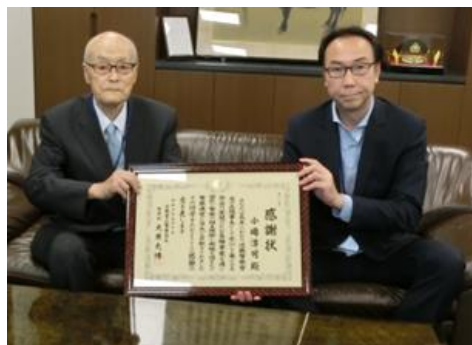
成川守彦 評議員

(医)千徳会 会長
和歌山県在住
昭和16年生まれ

小嶋前理事長に近畿管区警察局長より感謝状を授与

令和6年5月10日、大阪市中
央区の近畿管区警察局長で大原光
博局長から小嶋淳司前理事長に
感謝状が贈呈された。

これは長年にわたり近畿警察
官友の会理事長として、安心して
暮らせる社会の実現のため各種
事業を通じ、国民と警察の相互理
解と親睦を図るなどの多大な功
績が認められたものである。



近畿管区警察局長にて
右 大原近畿管区警察局長
左 小嶋前理事長

10月以降の行事予定

開催日	行事名	場所
10月 9日(水)	近畿優良警察職員に感謝の会	KKRホテル大阪
10月 28日(月)	和歌山県優良警察官表彰式	ホテルアバローム紀の国
11月 14日(木)	第47回奈良県警察優良警察官表彰式	ホテルリガーレ春日野
1月 31日(金)	大阪府警察優良警察官・民間警察協力功労者表彰式	ホテルプリムローズ大阪

「公益財団法人近畿警察官友の会」の詳細な決算及び活動については、当財団のHPをぜひご覧ください。会報もご覧いただけます。
<https://www.kk-tomo.com/>

夏季教養講座の西田講師の講演用スライドも掲載しております。新着情報「令和6年度夏季教養講座開催」のページよりご覧ください。

一人でも多くの方に友の会の趣旨に賛同いただき、ご入会いただけますよう、ご紹介、ご勧誘をお願いいたします。

発行所 公益財団法人近畿警察官友の会
〒540-0101
大阪府中央区谷町三丁目一番九号
MG大手前ビル二階
電話 〇六一六九四一七六三八
〇六一六九四一七六四一
FAX 〇六一六九四一七六四一
編集兼発行人 日下 勝之
印刷所 (株)新聞印刷